大 気

I 一般環境大気

1 目黒区の測定室及び測定項目

目黒区は、区立東山中学校に一般環境大気測定室を設置している。測定項目は次のとおりである。また、目黒区総合庁舎屋上に酸性雨計を設置している。

	表一1 目黒区の測定項目					
名称	所在地	測定項目	備考			
東山中学校 測定室		化窒素、浮遊粒子状物質(SPM)、光化学オ	試料採取口は 地上高16m 風向風速計は 地上高20m			

2 環境基準と評価方法

(1)環境基準

大気汚染の原因となる主な汚染物質には、二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、光化学オキシダント等があり、それぞれ環境基準が定められている。

	表-2 大気汚染の環境基準
物質	環境上の条件
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が 0.04 p p m以下であり、かつ、1時間値 0.1 p p m以下であること。
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が2 0ppm以下であること。
浮遊粒子状物質(SPM)	1時間値の1日平均値が 0 . 1 0 m g / m ³ 以下であり、かつ、1時間値が 0 . 2 0 m g / m ³ 以下であること。
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。

(2) 評価方法

環境基準の評価方法には、短期的評価と長期的評価がある。

二酸化硫黄・一酸化炭素・浮遊粒子状物質については短期的評価と長期的評価の二つの方法が、二酸化窒素については長期的評価、オキシダントについては短期的評価が定められている。一般に、二酸化硫黄・浮遊粒子状物質・二酸化窒素については健康に慢性影響を及ぼすことから長期的評価、一酸化炭素・オキシダントについては急性影響を及ぼすことから短期的評価が使われている。

短期的評価

測定を行った日についての1日平均値、8時間平均値、又は各1時間値を環境基準と比較して評価を行う。

長期的評価

1 二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質(SPM)

年間の1日平均値のうち、高い方から2%範囲内にあるもの(365日分の測定値がある場合は7日分の測定値)を除外した後の最高値(2%除外値)を、環境基準と比較する。ただし、環境基準値を越える日が2日以上連続した場合には非達成と評価する。

2 二酸化窒素

年間の1日平均のうち、低い方から98%に相当するもの(98%値)を環境基準(0.06ppm)と比較し て評価する。

*年間の測定時間が6000時間未満のものは評価外であり、日平均は、1時間値が1日のうち20時間以上測定された日(有効測定日)を対象とする。

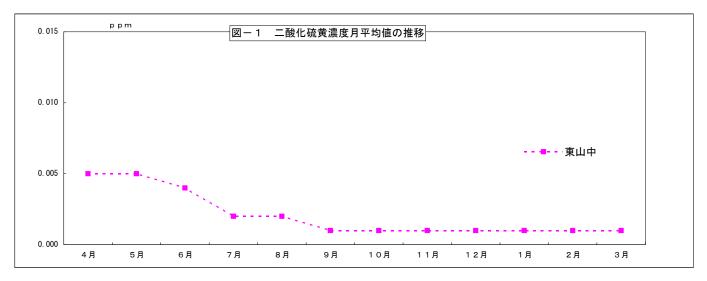
3 測定結果の概要

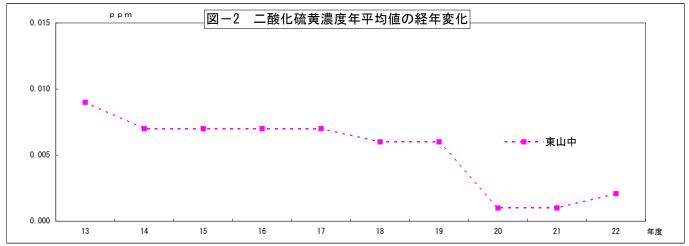
(1) 二酸化硫黄

二酸化硫黄は、主として重油の燃焼に伴い硫黄と酸素が結合し発生するものである。工場、 ビルなどのボイラー、ディーゼル車の排ガスが主な発生源であり、暖房が使用される冬季に 発生量が多くなる。

平成22年度の二酸化硫黄測定結果は表-3のとおりであり、環境基準を達成していた。 図-1は、月平均値の推移、図-2は年平均値の経年変化である。

	表一3 二酸化硫黄測定結果							
						環境基準適合状況		
測定室名	有効	測定時間数	年平均値	1時間値が0.1	日平均値の	1時間値の日平均値が0.04		
	測定		(ppm)	ppmを超えた	2%除外值	ppmを超えた日が2日以上	判	定
	日数			時間数	(ppm)	連続したことの有無	長期	短期
東山中学校	357	8, 510	0.002	0	0. 007	無	達成	達成
		6,000時間		1 時間値が	0.04ppm	1 時間値の平均値は0.04ppm		
評価方法		以上の測定局		0.1ppm以下で	以下である	を2日以上連続して超えない		
		のみ評価対象		あること	こと	こと		



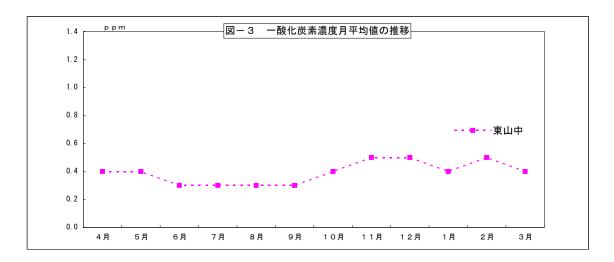


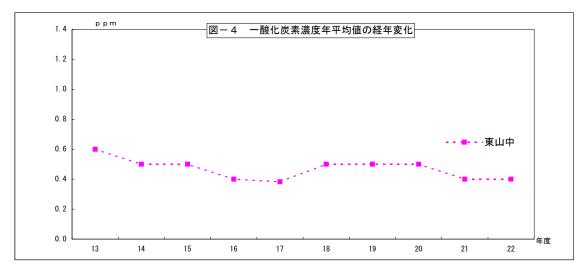
(2)一酸化炭素

一酸化炭素は不完全燃焼に伴なって発生する有毒な気体であり、大部分が自動車排ガスによるものである。

平成22年度の一酸化炭素測定結果は表-4のとおりであり、環境基準を達成していた。 図-3は、月平均値の推移、図-4は年平均値の経年変化である。

	表一4 一酸化炭素測定結果							
					3	環境基準適合状況		
測定室名	有効	測定時間数	年平均値	1時間値の8時間	日平均値の	1時間値の日平均値が10ppm		
	測定		(ppm)	平均値が20ppm	2%除外值	を超えた日が2日以上連続した	判	定
	日数			を超えた回数	(ppm)	ことの有無	長期	短期
東山中学校	364	8, 700	0.4	0	0. 7	無	達成	達成
		6,000時間		1時間値の8時間	10ppm	1時間値の日平均値が10ppm		
評価方法		以上の測定局		平均値が20ppm	以下である	を2日以上連続して超えない		
		のみ評価対象		以下であること	こと	こと		



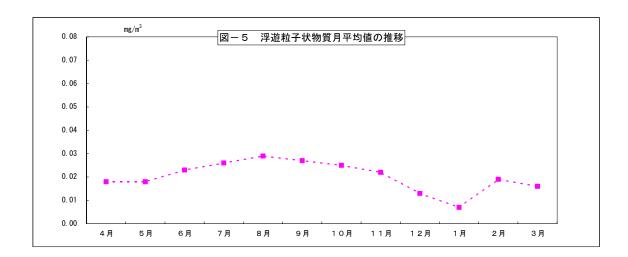


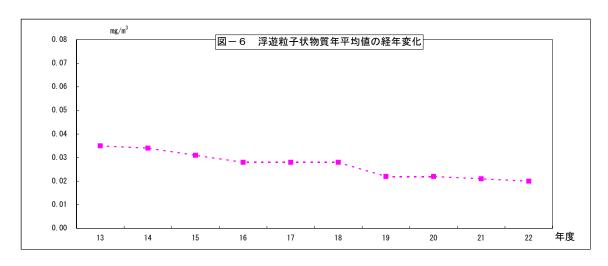
(3) 浮遊粒子状物質 (SPM)

浮遊粒子状物質は、浮遊粉じんのうち粒径10ミクロン以下の粒子であり、沈降速度が遅く 大気中に比較的長時間滞留する。

平成22年度の浮遊粒子状物質の測定結果は、表-5のとおりで、環境基準を達成していた。 図-5に月平均値の推移を示した。 年平均値の経年変化(図-6)は、ゆるやかな減少傾向が続いている。

	表一5 浮遊粒子状物質測定結果							
					環境基準適合状況			
測定室名	有効	測定時間数	年平均値	1時間値が0.20	日平均値の	1時間値の日平均値が0.10		
	測定		$(\mathrm{mg/m}^3)$	mg/m³を超えた	2%除外值	mg/m³を超えた日が2日以上	判	定
	日数			時間数	(mg/m^3)	連続したことの有無	長期	短期
東山中学校	365	8, 711	0. 020	0	0. 052	無	達成	達成
		6,000時間		1時間値が0.20	0.10mg/m^3	1時間値の日平均値が0.10		
評価方法		以上の測定局		mg/m³以下で	以下である	mg/m³を2日以上連続して		
		のみ評価対象		あること	こと	超えないこと		





(4)窒素酸化物

一酸化窒素と二酸化窒素を主体とする窒素酸化物は、物の燃焼に伴なって必然的に発生し、 その多くの発生源は工場及び自動車であるが、ビルや住宅からも排出される。

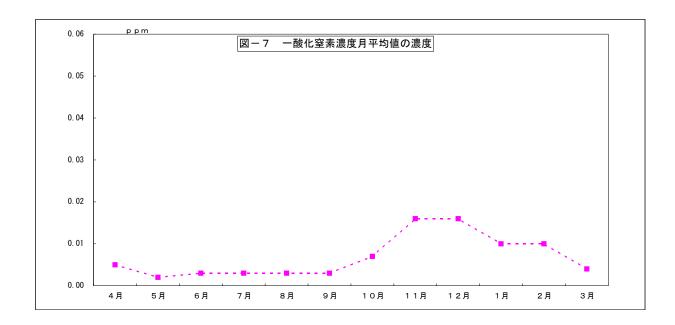
平成22年度の一酸化窒素測定結果は、表一6のとおりである。一酸化窒素については環境 基準が定められていないが、窒素酸化物として工場等において規制されている。

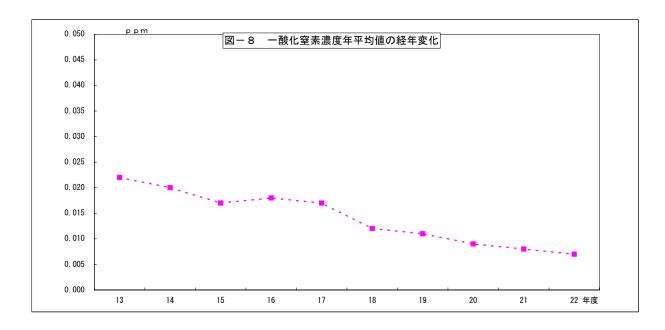
図-7は月平均値の推移である。11,12月をピークに冬季に濃度が高くなっている。年平均値

の経年変化は図-8のとおりで、22年度は若干減少した。 平成22年度の二酸化窒素測定結果は、表-7のとおりであり、環境基準を達成した。 図-9は月平均値の推移である。11月をピークに冬季に濃度が高くなっている。

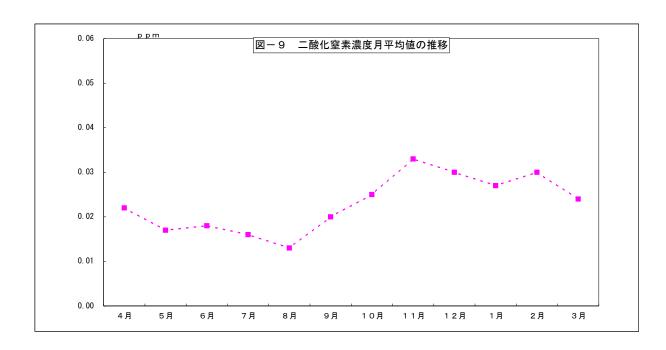
年平均値の経年変化は図-10のとおりで、減少傾向が続いている。

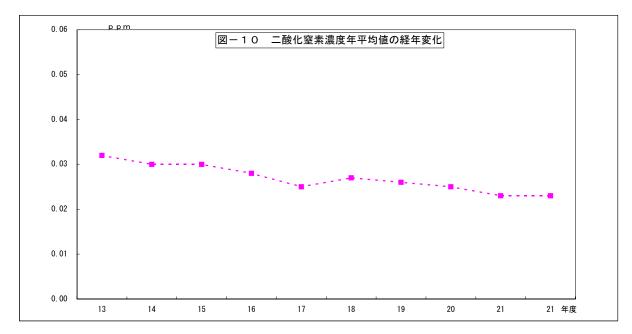
	表一6 一酸化窒	素測定結果概要	
測定室名	有効測定日数	測定時間数	年平均値(ppm)
東山中学校	363	8, 616	0. 007

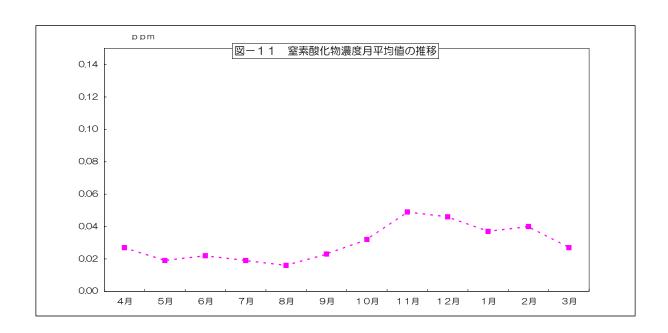


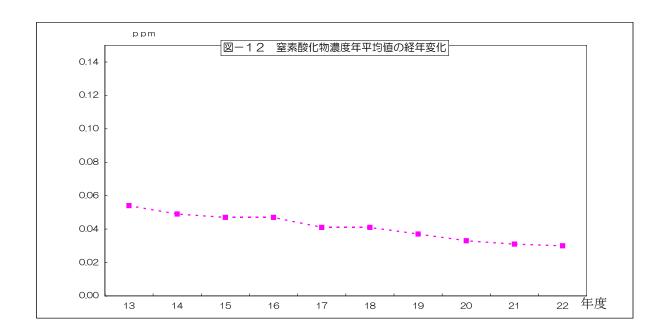


	表一7 二酸化窒素濃度測定結果概要							
	有効測定日		年平均値	環境基準適合状況				
測定室名	有劝则足口 数	測定時間数	(рр	日平均値の年間98%値	判定			
	32		m)	(ppm)	刊足			
東山中学校	363	8, 616	0. 023	0. 046	達成			
		6,000時間以上の		1時間値の日平均値が0.04 p				
評価方法		測定局のみ評価対象		pm~0.06ppmのゾーン内				
		烈足问070761個对象		又はそれ以下であること				









(5) オキシダント

一般に光化学スモッグと呼ばれており、自動車・工場などから大気中に放出された炭化水素 や窒素酸化物等に太陽の強い紫外線が作用して発生するものである。

平成22年度のオキシダント濃度測定結果は、表-8のとおりである。環境基準を超過した時間数は、420時間であった。

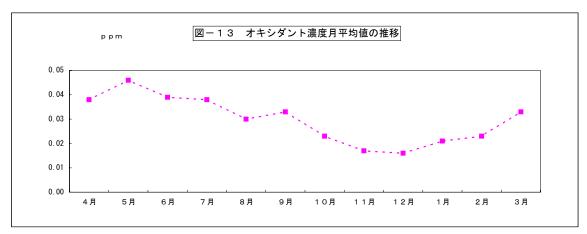
図-13は月平均値の推移である。

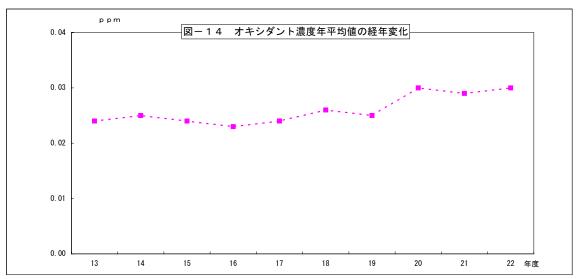
なお、昼間の1時間値は7月に最高濃度(0.205ppm)を示した。

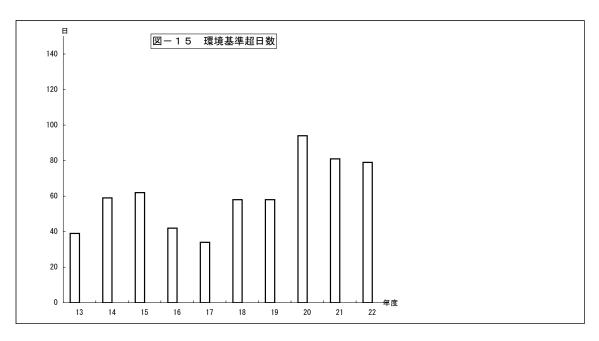
図-14は、年平均値の経年変化であり、近年は上昇傾向を示している。

また、オキシダント濃度が環境基準を超えた日数の経年変化を図ー15に示した。

	表一8 オキシダント濃度測定結果概要					
	有効測定日	測定時間数	年平均値	環境基準適合状況		
測定室名	数	(5時~20時)		昼間の1時間値が0. 06ppm 超えた時間数	判定	
東山中学校	365	5, 414	0. 030	420	非達成	
評価方法				1時間値が0.06ppm以下であること		







※オキシダントの人体に対する影響は、主として急性毒性です。このため環境基準の評価は、1時間値の年間最高が環境基準を超えると非達成になります。(短期的評価)

(6) 非メタン炭化水素

光化学スモッグの原因物質のひとつとされる非メタン炭化水素は、自動車やガソリンスタンド、有機溶剤を取り扱う事業所などから排出される。平成22年度の非メタン炭化水素の測定結 果は表-9のとおりである。

図-16に月平均値の推移、図-17に経年変化を示した。 平成22年度の月変化は、春季に高い測定値を記録している。 環境庁の行政指針は、昨年度に引続き非達成となった。

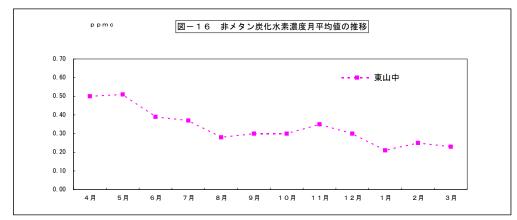
※行政指針

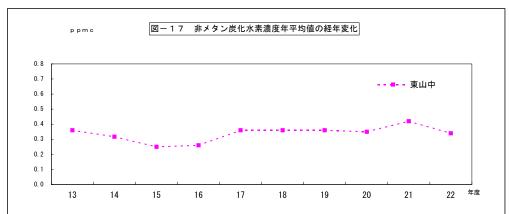
光化学オキシダントの環境基準を達成するための炭化水素排出抑制の行政目標。

炭化水素それ自体の健康影響に基づいたものでないので、"環境基準"とはいわず"行政指

け"という言葉を使っている。 オキシダントの生成は、他に気象要素等多くの要因が関係するため、指針の値は幅を持って設 定されている。

	表一9 非メタン炭化水素濃度測定結果						
	有効測定日		年平均値	行政指針適合状況			
測定室名	数	測定時間数	(ppm C)	6時~9時の3時間平均値	判定		
東山中学校	365	8, 618	0.33	0. 34	非達成		
評価方法	6時~9時 の測定日数			6時〜9時の3時間平均値が0. 20ppmCから0. 31ppm C			





(7) 光化学スモッグ

表-10は、過去10年間の光化学スモッグ注意報発令状況である。 平成22年度の夏は、目黒区を含む区南部地域の光化学スモッグ注意報発令日数は8日、東京都の発令日数は20日であった。

表-11は、被害届出状況である。平成22年度は、光化学スモッグによると思われる目黒区内の届出はなかった。

※:区南部地域:品川区·大田区·目黒区·渋谷区·世田谷区

	表-10 光化学スモッグ注意報発令日数〈区南部地域〉													
年度	4	月	5	月	6	月	7	月	8	月	9	月		it
13	0	(0)	0	(1)	5	(6)	4	(13)	2	(3)	0	(0)	11	(23)
14	0	(0)	0	(1)	2	(4)	2	(7)	5	(7)	0	(0)	9	(19)
15	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	3	(5)	2	(3)	5	(8)
16	0	(0)	1	(1)	1	(3)	6	(9)	4	(4)	1	(1)	13	(18)
17	0	(0)	0	(0)	3	(4)	3	(7)	3	(5)	2	(6)	11	(22)
18	0	(0)	0	(0)	2	(3)	3	(5)	4	(8)	1	(1)	10	(17)
19	0	(0)	1	(2)	1	(2)	2	(3)	6	(9)	1	(1)	11	(17)
20	0	(1)	1	(1)	0	(1)	5	(8)	2	(5)	2	(3)	10	(19)
21	0	(0)	1	(1)	0	(2)	0	(1)	1	(3)	0	(0)	2	(7)
22	0	(0)	0	(1)	1	(2)	5	(8)	2	(5)	0	(4)	8	(20)

() は、東京都の発令日数

表一1	1 光化学ス	くモッグ被害届	出状況
<u>地域</u> 年度	目黒区	() 内は 区南部地域	東京都全域
13	0	(0)	52
14	0	(0)	410
15	0	(0)	12
16	0	(1)	159
17	0	(0)	247
18	0	(0)	2
19	0	(0)	0
20	0	(0)	94
21	0	(0)	0
22	0	(0)	18

光化学スモッグ発令基準							
学校情報	学校情報 注意報 警報						
0.10以上	0.12以上	0.24以上					

オキシダント濃度(単位:ppm)

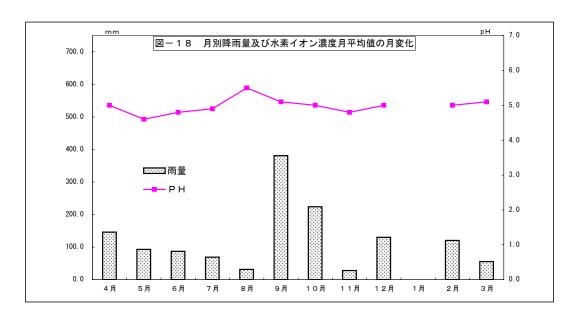
(8)酸性雨

平成22年度酸性雨測定結果概要を表-12に、図-18に降雨量及び水素イオン濃度 (pH) 月平均値の月変化を示した。

年間降雨量は1367mmで、9月が最も多く381mmであった。また、1月は降雨がなかった。水素イオン濃度の年間平均値はpH5.0であった。

表-13は酸性度測定結果の月別経年変化、表-14は、平成22年度に回収した雨の成分濃度である。

表一12 酸性雨年間測定結果概要								
降雨回数	降雨量(mm)	p H(平均値)	電気伝導率 (μS/cm)					
71	1, 367	5. 0	9. 6					



表一13 酸性度測定結果の月別経時変化										
	水素イオン濃度(pH) 最低値~最高値									
測定月	平成18年度	平成 1 9年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度					
4月	3.5 ~ 7.3	3.8 ~ 7.0	3.8 ~ 6.0	4.0 ~ 5.7	4. 2 ~ 6. 3					
5月	3.8 ~ 7.0	3.9 ~ 5.5	3.9 ~ 6.2	3. 7 ~ 6. 3	4.1 ~6.8					
6月	3.4 ~ 5.8	3.6 ~ 5.4	3.8 ~ 6.1	3. 7 ~ 5. 6	3. 7 ~ 6. 5					
7月	3.6 ~ 5.7	3.7 ~ 5.9	3.9 ~ 4.9	4.1 ~ 6.0	4. 1 ~ 6. 7					
8月	3.5 ~ 6.2	3.9 ~ 4.7	3.7 ~ 5.8	4.0 ~ 6.8	5. 4 ~ 6. 0					
9月	3. 2 ~ 6. 4	4.1 ~ 6.2	3.9 ~ 5.8	3. 6 ~ 5. 3	3.9 ~ 6.5					
10月	4.1 ~ 6.1	4.1 ~ 5.8	3.7 ~ 5.9	3.8 ~ 6.7	3. 5 ~ 6. 5					
11月	3.7 ~ 5.7	3.9 ~ 5.1	3.9 ~ 5.7	4.3 ~ 6.0	4. 1 ~ 5. 4					
12月	4.0 ~ 5.6	4.6 ~ 6.5	4. 3 ~ 5. 8	4.6 ~ 6.2	3. 8 ~ 5. 7					
1月	5.1 ~ 7.0	4.1 ~ 5.4	4. 2 ~ 5. 6	4.6 ~ 5.4	降雨なし					
2月	3. 7 ~ 5. 4	4.4 ~ 6.5	3.8 ~ 5.8	3.8 ~ 6.9	4. 1 ~ 6. 2					
3月	4. 2 ~ 7. 0	3.8 ~ 6.8	3.8 ~ 6.1	4. 2 ~ 6. 5	4.1 ~6.8					
平均	4. 7	4. 5	4. 7	4. 9	5. 0					

※pH5.6以下の雨を一般に酸性雨と呼ぶ。

表一14 湿性降下物含有成分分析結果										
	溶解性成分(μg/m I)			不溶解性成分(μg)						
測定月	硫酸イオ ン S O 4 ² –	硝酸イオ ン NO3-	塩素イオ ン CI-	ナトリウ ムイオン Na+	カリウム イオン K+	ナトリウ ム N a	カリウム K	重量 (mg)	回収水量 (mI)	降水量 (mm)
4月	1. 2	0. 87	1. 2	0. 68	<0.05	9. 5	11	1. 70	1, 701	149. 0
5月	1. 5	1.3	0. 33	0. 15	<0.05	5. 1	11	1. 30	995	90. 0
6月	1.5	1. 2	0. 36	0. 18	<0.05	8. 1	4. 2	0. 69	1, 100	100. 5
7月	0. 87	0.81	0. 62	0. 27	<0.05	2. 6	3. 7	0. 83	623	55. 5
8月	0. 17	<0.05	0. 10	0. 023	<0.05	0. 77	0. 35	0. 085	296	31.5
9月	0. 48	0. 38	0. 27	0. 15	<0.05	4. 1	1.5	0. 45	4, 174	383. 5
10月	0.44	0. 47	0. 27	0. 15	<0.05	1. 5	1. 2	0. 64	2, 702	222. 5
11月	0. 77	0. 46	0. 90	0. 52	<0.05	0. 46	0. 52	0. 20	985	103. 5
12月	1.1	0. 91	0. 92	0. 51	<0.05	0. 61	1. 3	0. 17	712	55. 0
1月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0. 0
2月	0. 91	0. 76	0. 63	0. 39	<0.05	6. 3	10	1. 7	1, 363	126. 0
3月	1.1	1. 2	0. 38			8. 9	13	5. 4	545	50.0
平均値	0. 81	0. 67	0. 50	0. 28		4. 4	5. 3	1. 20	1, 266	113. 9
最高値	1. 5	1. 3	1. 2	0. 68		9. 5	13	5. 4	4, 174	383. 5
最低值	0. 17	<0.05	0. 10	0. 023	<0.05	0. 46	0. 35	0. 085	0	0. 0

- ※ 分析用雨水の回収を月の初日から末日までの周期で行っていないため、 月分の降水量が、図-18の降雨量(月の初日から末日まで)と異なる場合がある。
- ※ 平均値は降水量で重み付けをして算出し、定量下限未満値は0として計算を行った。
- ※ 平均値は有効数字以下の数値を含め算出しているため、表中の数値で平均値の算出を行うと、表示値と計算値が若干異なることがある。

(9) 気象

平成22年度の温度の最高値(1時間値)を見ると7月21日に36.7 $^{\circ}$ であった。また、最低値(1時間値)は1月31日の -1.6° であった。 真夏日の合計は72日、真冬日は4日であった。 温度・湿度の年間測定結果概要を表-15に示した。

風向は年間ではN系が主風向で、夏季はS系、冬季はN系が優勢となっている。 風速は0.3~1.2m/s、1.3~2.2m/s、2.3~3.2m/sの3階級で70%以上占めていた。

> 真夏日・・日最高気温が30.0℃以上の日 真冬日・・日最高気温が0.0℃未満の日

表一15 温度・湿度測定結果概要								
測定室名	主方向 (%)	平均風速 (m/s)	推 年平均値	盘 度 (℃) 最高	最低	湿 年平均値	度(% 最高) 最低
東山中学校	N (12. 2)	2. 5	16. 8	36. 7	-1.6	64	99	10

※最高・最低は1時間値である。